

明治七年八月二日

大臣

参議

議長

法制課

別紙市川又三町二知庭白尺度量衡
之儀及調査度量衡之儀既大
藏外務省等上申之旨以有之其節
議案如付之上奏被呈候付之本件之如
和我國上古之起源、溯及神州、歐洲諸
國之制ヲ參照シ、頗詳密明瞭、有之

院

七十一号

河内正之為考之山可相成守一應供言先

考也

考也

先般大藏省へ之河内指令案

河内正之為考之山可相成守一應供言先
曲尺ト定リ其尺式寸五分ヲ
器ヲ除ク之外一切碍慮ニ付類ハ右曲尺ヲ以テ
其後際ヲ定リ更ニ尺寸種類應置條款種
類表共附紙之通相傳テ猶可同出事

建白書扣

建
第七十六号

以上書奉申上候

長野縣管下

信濃國佐久郡

岩村田町平民

又右門外

柳沢和 物

去^レ以^レ明治三四年中、岩村田藩^在屆^ク之^レ同^レ月中、
出京馬喰町^町勤^レ四^レ命^方旅^者為^同之^レ月^日元^集議^院、
尺^度之^儀建^白仕^方書^法外^縁為^返之^レ及^至之^レ市^部、
建^白認^定之^レ呈^左出^方、^日仰^渡日^月正^二日^上出^建白、
奉^差上^方書^法外^縁同^方、^日應^之至^祥向^方了^之書^法

建白書は、法皇助建白、古記に下す。故一、直海玉之上
志願篤く、巨細を包み、管轄之座、係属致し、又、古記に、
兼知北其後、古亦六月朔、日民部省、箱新、由推、
趣、下、紙、神、北、高、建、之、趣、年、礼、
番、省、一、可、尾、出、古、
此、高、早、速、古、
院、評、中、古、
至、古、以、
古、速、古、
奉、急、惟、古、

古、
長、野、古、
御、當、院、
日、月、九、日、
上、仰、古、
中、
古、
十、一、人、
根、元、

是夜三更後十少然トモ積年ノ志願一歎久シ泡も亦
 愁歎トモ、再此十月中出家同十九日自断是世法去
 建白書有條以再意勿出有度井上以郎殿
 孝上如下日月廿七日七日生有度左下日八左人
 中ニ又玉許ヨリ一ト先帰書致旨候礼ヲ以中送
 十月廿五日迄以廿九日十二月廿日迄返玉申上
 此上命返玉世々ヨリ一室在候食ニ安息思物骨其
 本之調申一命右日限為馬局ノ運送ニ候事
 以テ連下ノ又一日凝火世々防知ノ私共刻苦初初

尺度ノ根元上及御 經手案此去月十二日法成
 本末ノ調申一室一意以細甘是去月殿在古
 當又今般別紙ノ通リ申建白書一覽
 此ノ條月積年ノ志願有違以孫少世々候口
 以上書致以申終去月以上

明治七年五月十八日

外神田末彦
 三十三歳也
 又右門事

市川又

三十九歳



柳澤和助

小林甚五郎

左院
御中

建白書

伏テ惟ルニ方今王政復古庶績維新言路洞開シテ充塞
スル所ナク是ヲ以テ少ク利害ヲ抱ク者ハ出身登席廟
堂ノ上ニ坐レ國家ノ大政ヲ議シ或ハ出テ府縣ニ赴キ牧民ノ
職ニ任ス故ニ聖化普ク布キ百廢盡ク興リ百官其職ニ任シ
人民其所ヲ得實ニ聖代ノ美矣ト奉拊舞然ルニ獨リ尺
度猶小舊制ニ依リ未タ御政定有ラセラレザルハ竊ニ慨歎
仕候吏レ尺度ハ天下之重君人民之至寶領吏モ欠クベカ
ラズ地理方圓之數ヨリ斜至交多差之形ニ至ルテ皆十尺
度ニ因テ其長短大小ヲ求ルナリ故ニ尺度ナル者ハ製式必
ズ確定シ分寸必ズ精密ニシテ後テ可用者ト奉存候今
也製式確定セザルニ非ズ分寸精密ナラザルニ非ズト雖ニ國

家之ヲ檢スル所以規例ヲ設立遊バサルニ非レバ遂ニ工匠隨意ニ造作スルニ至ラン歟ト奉存候然則テ人民何ニ因テ物ノ長短大小ヲ確知セシヤ甲ハ乙ヲ欺クニ尺度量ヲ以テシカハ甲ヲ騙スルニ寸ヲ以テス欺騙五ニ行ハルハ即チ濫取之基最モ可恐事ト奉存候去明治三年中右尺度之儀ニ付故集議院民部省^台屢々建白仕尚又昨春管轄廳ノ添簡ヲ以テ御當院^台建言仕候折柄方今地券御改定實地御檢査相成候趣即テ經思ヲ正スルハ則御仁政ノ一端此等ノ義舉ハ御聖代ノ未曾有之莫奉存候乍然實地御檢査ノ基本ハ尺度ニ在リ故ニ先ツ尺度量又正フシテ後ニ非レバ勉强苦思スト雖モ地坪段畝ニ於テ毫釐ノ差ヒナキ能ハザルト奉存候且ツ毫釐ノ差ヒハ些少ト雖モ此ニ一毫ノ差ヒアリ

彼ニ一釐ノ差アリ此彼累積シテ各縣ニ至リナハ一郡一村ノ差ヒヲ生スルニ至ラン然則テ永久ノ御定制トハナシカタカラニ歟ト奉存候夫レ尺度量衡ハ人民共ニ依ル所ニシテ固トニ致ナリ輕重多寡ヲ以テ言ハハ之ヲ量衡ト謂ヒ長短大小ヲ以テ言ハハ之ヲ尺度量衡ト謂フ故ニ尺度量衡之制ハ國家之要務一日モ緩フスベカラザル者ニシテ若シ之ヲ緩フスレバ人民依ル所ナク奸高益々私欲ヲ逞ウレ良民益々損害ヲ蒙ルト必セリ天下之產業平均ナラザルハ固ヨリ勿論ノ事ナレバ奸高益ヲ得テ良民損ヲ受ルトハ文明ノ御代ニ有之間敷事ト奉存候故ニ國家奸高抑制シ良民ヲ扶助セント思召サレバ高社ノ律貿易之法ヲ御定立被遊ルハ勿論ノ事ナレバ尺度量之製式ヲ御

確定被遊ルニ非ザレバ或ハ尚ホ欽之スル所モアラシ歟ト奉存候
 何ニナレバ尺度量衡ニ致ナシト雖モ量衡ノ製式ハ必ス尺
 度ニ因テ之ヲ定ル者ニシテ尺度先リ正クシテ量衡
 從テ正シキコトヲ得ル者ト奉存候得バナリ量衡ノ如キハ
 已ニ座ヲ設ケ人民ヲシテ依ル所有ルコトヲ知ラシメサセ
 ラレタリ尺度モ又如是ナラバ人民依ル所ヲ知リ安堵シ
 テ其職業ニ從テ食養生喪死シテ憾ナキコトヲ得ント奉
 存候依之尺度ノ製式ヲ御確定被遊工匠ノ私造高
 賈ノ私用ヲ御嚴禁被遊ニテ奉懇願候仍ホ尺度
 ノ起原等委細ノ事ハ別紙ニ相認言上仕候恐惶謹言

明治七年五月

又右同筆

市川又



柙澤和助

左院
御中

柳

皇國鐵天の温徳を天の皇祖神の大御體比由丈成度より
 換しぬる天の瓊布比伊邪布比伊邪那比二柱神の賜り
 し三柱神破取意を比伊邪布比天の御體を比伊邪布比
 天の御量程より比伊邪布比天の太玉
 命の御末齋部より比伊邪布比天の御體を比伊邪布比
 比伊邪布比今より比伊邪布比天の御體を比伊邪布比
 比伊邪布比長比二丈六尺比伊邪布比天の御體を比伊邪布比
 比伊邪布比長比又比伊邪布比天の御體を比伊邪布比
 比伊邪布比度比比伊邪布比天の御體を比伊邪布比
 比伊邪布比度比比伊邪布比天の御體を比伊邪布比

起源

呂氏春秋曰黃帝使伶倫氏取竹為黃鐘之律因律作度者丈尺也

書舜典曰協時月正日曰律度量衡註律法制及丈尺斛斗斤兩比皆同

說苑二度量衡以粟生之十粟為分十分為寸十寸為尺唐人詩：累黍定毫釐從此始積分丈尺自茲成

淮南子說苑為粟則黍無大異可以知矣字書：周制寸尺咫尋常僅諸度量比皆以人之體為法

家語：布指知尺舒肱知尋丈尺寸分釐毫絲忽

釐 十厘為一分 兩推：律謂之分註：律管可以分氣

毫 長七又十絲曰毫 毛八眉髮之屬及歛也

絲 蠶所吐者又十忽為絲五忽為糸

忽 減也又群吐絲為忽又蜘蛛細

漢書叙傳元之本數起於一產氣黃鐘造計秒忽秒音渺濛也秒之言：妙也微妙也

歷觀諸書起源元調大畧

- 一 本朝曲尺 一尺五寸
- 一 裁衣尺 一尺一寸二分
- 一 夜尺 曰
- 一 量地尺 一尺七分五釐
- 一 營造尺 一尺五分
- 一 明曲尺 曰
- 一 縱黍尺 一尺三分七釐
- 一 明律尺 曰
- 一 唐大尺 一尺四分二厘強
- 一 京尺 一尺一分二厘半
- 一 省尺 曰
- 一 三司布帛尺 一尺一分二厘半

一 宋大府布帛尺一尺一分二厘半

一 大府寺鑊尺一尺一分二厘半

一 宋指尺九寸七分二厘

一 後周市尺九寸六分一厘弱

一 開皇官尺曰

一 斜黍尺九寸三分三厘強

一 明律尺曰

一 後魏中尺九寸八厘強

一 後魏前尺九寸五厘

一 水尺律八寸八分九厘

一 隋律呂水尺曰

一 唐小尺八寸六分八厘半

一 蔡邕籥尺曰

一 明律尺八寸四分

一 橫黍尺曰

一 清古尺八寸五分五厘

一 和岷景表尺 皇祐中黍尺 影表石尺 乾隆新尺 七寸九分八厘

一 晉後尺七寸九分六厘半

一 後周錢尺 平康後調鐘律尺 錢樂之渾天儀尺 開皇初調鐘律尺 七寸九分八厘

一 宋氏尺曰

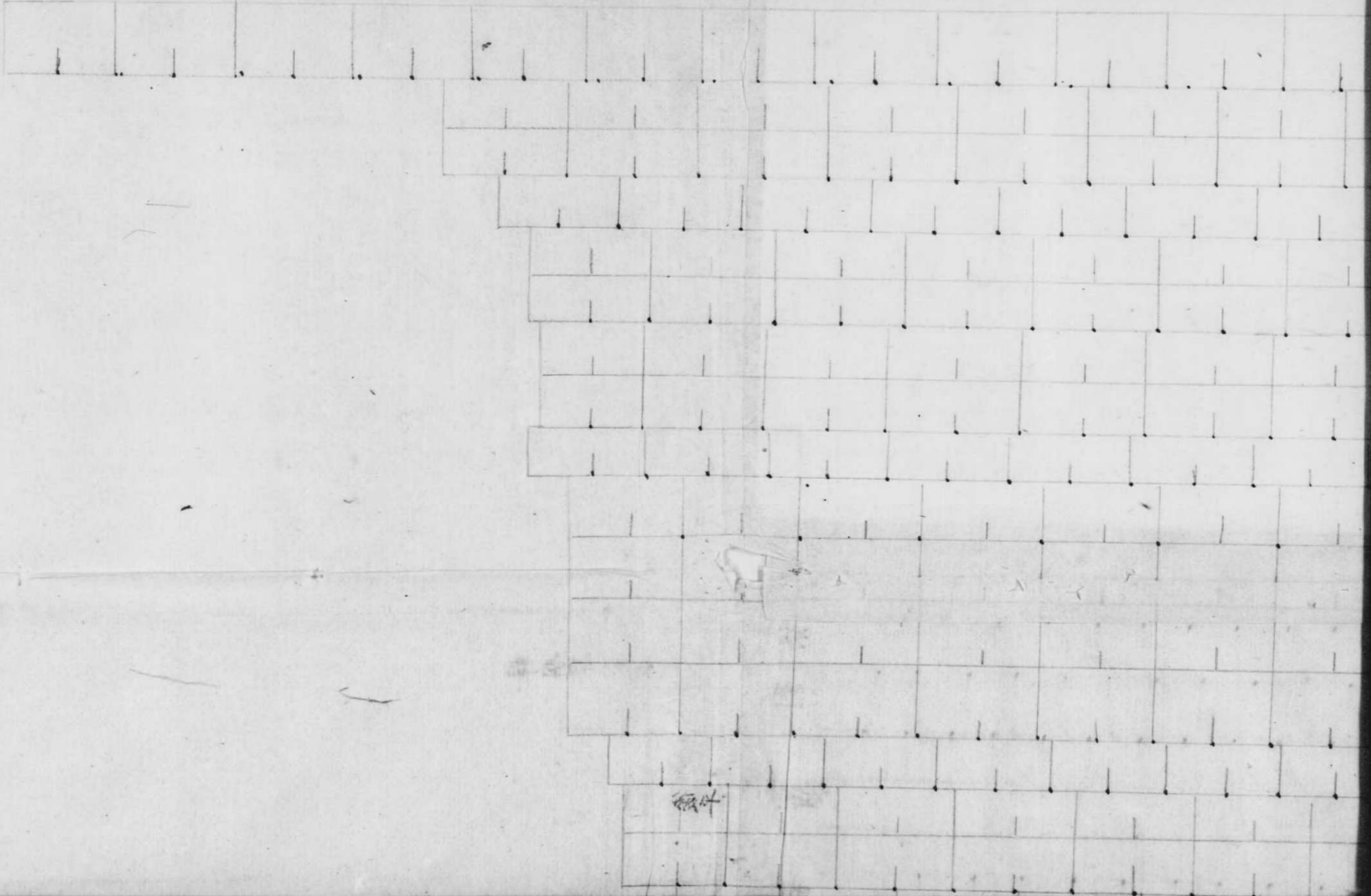
一 杜觀尺魏尺七寸八分四厘

一 劉曜渾天儀土圭尺晉雜尺七寸八分七厘半

一 梁表尺七寸六分六厘八

一

左：度形順席著



綴

左：度形頌席著

The image shows a page of graph paper with a grid of horizontal and vertical lines. The grid is mostly empty, with some faint markings and a small drawing of a hand on the left side. The paper is aged and has some discoloration. The title '左：度形頌席著' is written at the top center.

紙片

斜明字齊登

在統守

後魏中前守

後守

斜明守齊強

杜統守

寸同橫明

古清 寸同蔡善

扣皇

晉徵

錢開宋白

劉

梁

晉梁同寸

老淮太漢後曰寸

漢

錢開宋曰

古清 寸曰蔡善

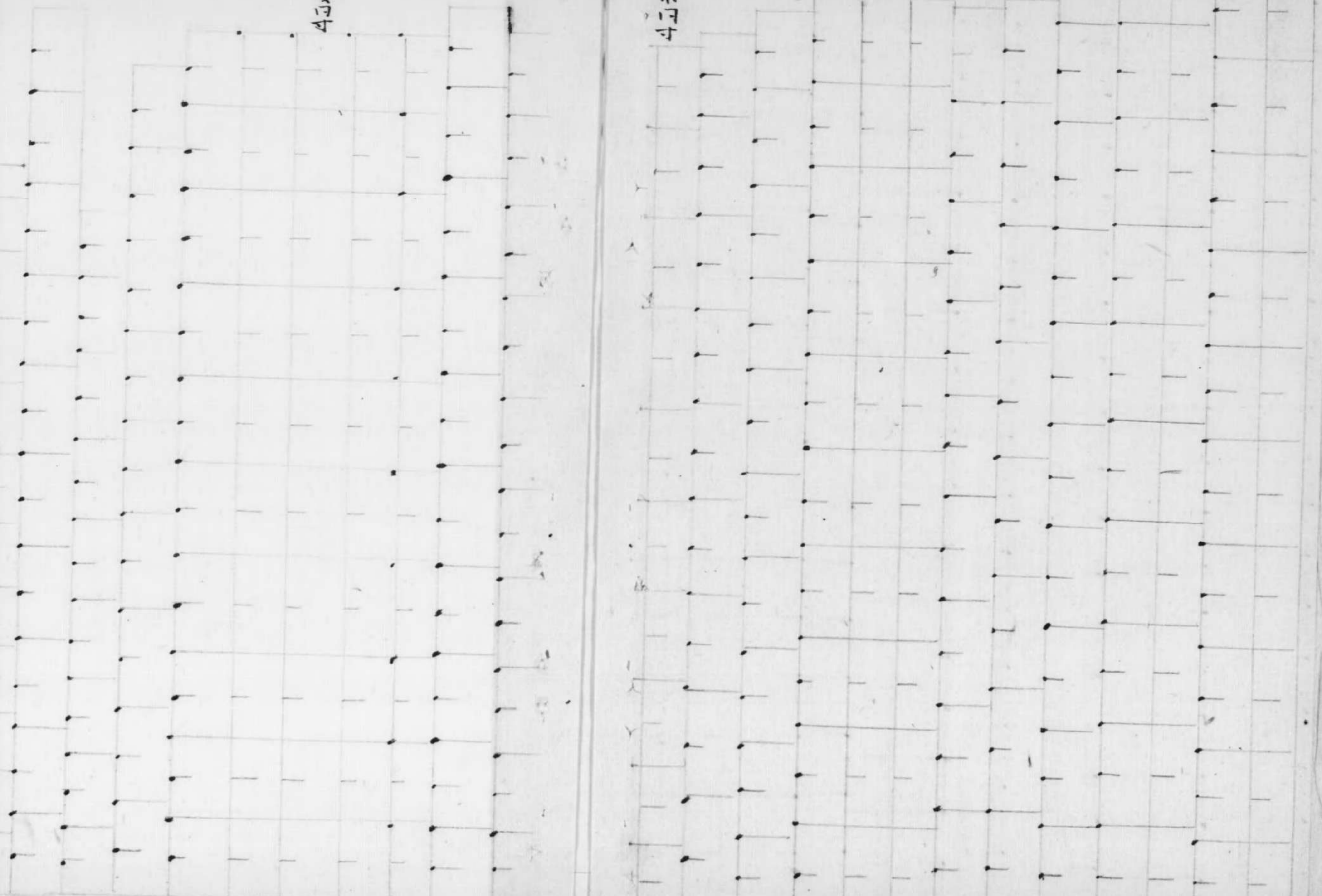
寸曰橫明

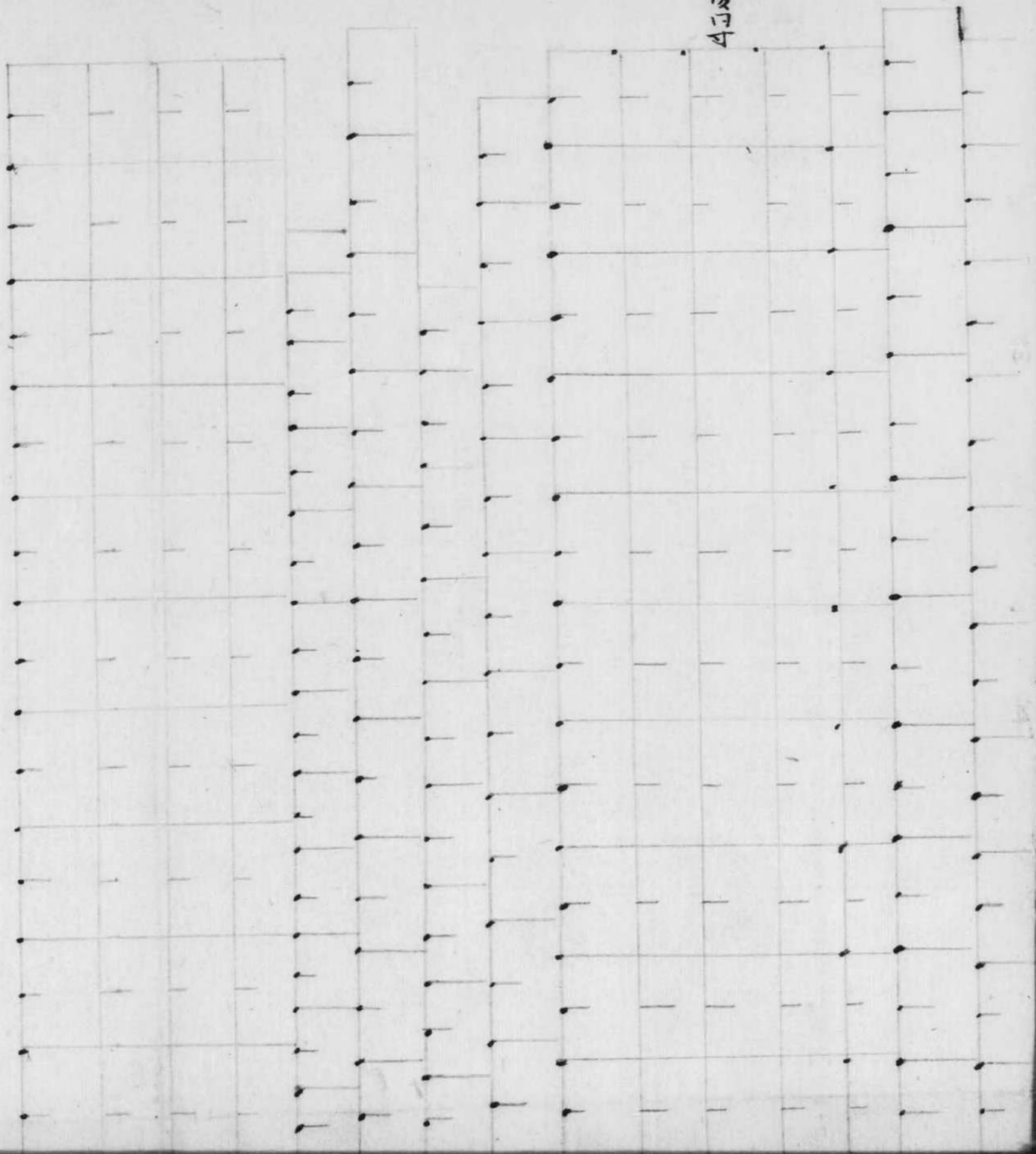
晉後

扣皇

梁 劉

晉梁曰寸





大畧度形如是

各尺度又分寸起調中後御一覽

但レ國郡ニヨリ或ハ五十町或ハ七十二町ヲ用ヅル所アリ

英吉利ノ尺度

但レ距離ノ長短ノミヲ測ルニ用ユ

一ラインハ 我六厘九毛七四三七八ニ中ル

一^{オト誤ス}ラインハ 我八分三厘六九二五三六ニ中ル

一^{オト誤ス}フットハ 十二インチ即チ百四十四ライン 我一尺零零四厘

三一零零五ニ中ル

一ヤルドハ 三フット即チ三十六インチ 我三尺零一分二九三二

五ニ中ル

一ポールハ一名ロウド凡ク五ヤルド半即チ十六フット半即チ

百九十八インチ 我一丈六尺五寸七分一厘二

一フルロンクハ四十ポール即チ二百二十ヤルド又六百六十フー

ド又七十九百二十インチ 我百十間二尺八寸四四九即チ六十

六丈二尺八寸四四九

一^{オト誤ス}マイルハハフルロンク即チ三百二十ポール又千七百六十ヤルド又五

千二百八十フールド又六万三千三百六十インチ 我十四町四

十三間四尺七寸五分九厘四七四ニ中ル

一フアゾムハ六フット即チニヤルド 我六尺零二分五八六三ニ中ル

一ハインドハ四インチ 我三寸三分四七七零一ニ中ル

一キエビワトハ 十八インチ 我一尺五寸零四九六五七

同地理尺海陸地理共ニ用ユ

一^{オト誤ス}マイルハ 六千七百七十五フット八一ナリ 我十六町五十七間

一^{オト誤ス}リーグハ三マイル 我一里十四町五十一間

一^{オト誤ス}度ハ二十リーグ即チ二千マイル 我二十八里九町ニ中ル

地球ノ周圍ハ三百六十度即チ七千二百リーグ又二万六千六百マイル又一

億三千百二十三万七千五百一十英尺 我一万零七百七十里

司端物尺織物類皆之ヲ用ス

- 一子ールハニインチ四分一 我蘇尺ノ一寸五分零六四六五ニ中ル
 - 一クオルトハ四子ール即チ九インチ 我蘇尺六寸零二五八六三ニ中ル
 - 一ヤルドハ四クオルト即チ十六子ール 我蘇尺二尺四寸一零三三ニ中ル
 - 一フレミスエルハ三クオルト 我蘇尺一尺八寸零七七九ニ中ル
 - 一イギリススエルハ五クオルト 我蘇三尺零二九三ニ中ル
 - 一フランススエルハ六クオルト 我蘇三尺六寸一五五ニ中ル
 - 一スコツエルハ 三十七インチ 我蘇二尺四寸七七三ニ中ル
- 佛國尺度 但シ新尺度舊尺度アリ 差ニ新尺度ノミヲ掲ク
- 一ミリアメートルハ十キロメートルニ或ハ一萬メートル 英ノ三万二千八百零八フット三七五 我二里十九町三十一間四尺八寸

- 一キロメートルハ十ヘクトメートルニ或ハ十メートル 英ノ三千二百八十
 - 一ヘクトメートルハ十デカメートルニ或ハ百メートル 英ノ三百二十八
 - 一メートルハ十デシメートルニ或ハ百センチメートルニ或ハ千ミリメートル
 - 一デシメートルハ十センチメートルニ或ハ百ミリメートル
 - 一センチメートルハ十ミリメートルニ或ハ百マイクロメートル
- 英ノ三フットニ八零九三七五 我三尺二寸九分五厘
- 一デシメートルハ十センチメートルニ或ハ百ミリメートル 英ノ三インチ九三七一ニ或我三寸二分九厘五毫一
- 一センチメートルハ十ミリメートルニ或ハ百マイクロメートル 英ノ零インチ三九三七二ニ或我三分二厘九毫五

一ミリメートルハ英ノ零イシテ零三九三七一二五 杖三厘三七
一里ハ五千里メートル或ハ度ノ二分四十二秒英ノ地理尺二里七
杖一里九町四十五間五尺四寸

地球ノ周圍ハ四千万メートル或ハ三百六十度又八千里英ノ一億三
千二百二十三万七千九百七十七里

蘭國ノ尺度

一 一丈ハ十バラム 英三フート二八零九三七五 杖三尺二寸九分五厘零八
一 バラムハ十ドイム 英ノ三イシテ九七一二五 杖三寸二分九厘九毫零八
一 ドイムハ十ステレープ 英ノ零イシテ三九三七一二五 杖三分三厘九毫
五系零八
一 ルーデハ十丈ル 英ノ十零ヤルド九三六四八三 杖五間二尺九寸五
分零八毫

地球ノ周圍四千万丈ル或ハ地理尺五千四百里 杖一千万零百七十里
各國ノ尺度大略比較

支那大ユノ用ユル一尺ハ英ノ十一イシテ四五 杖一尺零六分四六

同 畜人ノ用ユル一尺ハ英ノ十三イシテ三三 杖一尺一寸一分四八

同 數學ニ用ユル一尺ハ英ノ十三イシテ一二 杖一尺零九分八厘零

同 測量ニ用ユル一尺ハ英ノ十二イシテ一五 杖一尺零一分七厘零

魯西亞國ノ一フートハ英ノ十三イシテ七五 杖一尺一寸五分零八毫

羅瑪國ノ一フートハ英ノ十一イシテ十六 杖九寸七分零八毫

獨逸北部聯邦ノ一フートハ英ノ十二イシテ三六 杖一尺零三分零三毫

ペルシヤノ一アリスハ英ノ三十八イシテ二四 杖三尺二寸零零四毫

フロレニスノ一ブラクシヨ一ハ英ノ二十一イシテ十六 杖一尺八寸零七厘八毫

ドレストンノ一フートハ英ノ十一イシテ十四 杖九寸三分三厘三毫

ペルリニア一フートハ英ノ十二インチ一尺九寸二分零三毛
ブレメニア一フートハ英ノ十一インチ三ハ寸九分五厘四毛
スペイン一フートハ英ノ十一インチ零三寸二分三厘一毛
リガ一フートハ英ノ十零インチ七九寸零三厘一毛
ワルギニア一バルモ一英九インチ七ハ寸八分八厘五毛
瑞西國一フートハ英ノ十一インチ六九寸七分八厘四毛

方今各國分寸如是

右度形調中一退々御一覽

右歴觀諸書度量衡謂粟謂黍最多然土地肥瘠年豐凶
凶又有多種黍粟不一或布指或人之以體若法或整毫絲忽
ヲ以又アリ或律歷志曰黃鐘管容一千二百黍音律ヲ定ム
又多其說班々乍然正不正ノ尺度今試シ


抑尺度彌御旋製タル御基本ハ何ヲ以後古實用被遊シ
其折柄ハ往昔ノ傳一國一例毎ニ分寸必ス異ナリ而シテ其
定キハ一ツニ使用セザラン別度ハ其一ツニシテ天地ノ
用度其數ヨリ生スルト雖モ分寸悉クシテ精密相調
中退々一覽可奉願上候

一御政製ニ由一假御引替御仕法モ又悉クシテ著セリ

先般ヨリ天度之儀、附建白仕候處、天度之根元取調可差出様
被仰渡固ヨリ天賦愚鈍、私等別ニ根元可取調様手段無之
候得共、天度ハ天下之重器、人民至寶、領吏モカクベカラズ、地
理方山ノ數ヨリ斜至差ノ形ニ至ルマテ皆十尺度ニ因ラズ長
短大小ヲ求ムルナリ故ニ天度ナル者ハ製式必ス確定シ分寸
必ス精密ニシテ後ト可用者ト奉存候今也、一國一以毎ニ分
寸必ス異ナリ是レ所謂工匠随意ニ造作スル流弊ナリ私等
此ニ慨アリ依而天度根元詮索、一曰昼夜寐食ヲ不安
息思務骨百方尽力致シ先ツ天度ノ基本詮索仕今、天
度基本書共言上仕候間、御採用相成候様、偏ニ奉懇禱
候固ヨリ天賦ノ頑鈍ニテ天度ノ基本詮索致シ候テモ固
ヨリ精密ナラザレバモ積年此ニ慨アリ傍觀スルニ思ヒス赤心ヲ

以テ言上仕候今日ノ隆運ニ際リ此等ノ御定制相立候ッ、
亦萬民ノ幸一ナラスヤ何卒御採用相成候様、伏而奉
歎願候誠惶誠惶

明治七年九月

市川又 

左院
御中

明治七年八月廿九日

大臣

参議

議長

副議長

兵務課

三重縣下平民松雅榮昇建議海防豫備ノ一篇又
 審査候處方今沿海警備ノ薄キヲ憂フルノ主趣
 ハ尤ニモ相聞候得共其畫策ニ至リテハ政体ト
 兵制ノ沿革トヲ詳ニセサルヨリ施設ノ緩急攻
 守ノ方法兩ナクテ其當ヲ得ス况ヤ費途ノ計算